



Close Up YNU 2010

YOKOHAMA National University NEWS

大学との「絆」をより深める、コミュニティマガジン

NEWS

YNUユニバーシティ・アイデンティティ

平成22年、横浜国立大学は公式なロゴ、シンボルカラー、スローガンを制定。YNUを国際的なブランドへ。

President's Message

学長からのメッセージ

横浜国立大学の学長に就任し2年目となり、本学の強み、魅力をさらに高めることに励んでいます。折しも、急速にグローバル化が進んでいる中、世界的に通用する人材の育成を核とした教育・研究を一層推進するため、全学を挙げて取り組んでいるところです。この一環として学部教育をさらに強化し、実質化するための道標として「YNU initiative」を制定いたしました。教育目標を設定し、学生一人ひとりが確かな学士力を身に付けられることを目的としています。

また、卒業生、諸先輩の方々が横浜という地で築いてくださった歴史や実績、さらには現在の本学の教育研究の実態を見据え、大学のあり方、目指すべき方向を示していくこととしました。その結果「実践的学術の国際拠点」といった指針を掲げ、大学の運営を図っているところであります。さらには、教育・研究組織の拡充のため、平成23年度からは大規模な改組(教育人間科学部の改編、理工学部の設置、新大学院:都市イノベーション学府の新設など)を実施いたします。まだ道半ばではありますが、在学生、卒業生、教職員、そして関係者の皆様のご協力を得て日本の大学をリードする存在となることを希求しています。今後ともよろしくお願い申し上げます。



K. Suzuki 鈴木那雄

横

浜国立大学は昨年、創立60周年を迎えました。これを機に、本学の理念を再確認し、その存在意義を社会へ明確に示していくことになりました。多角的に検討した結果、国際都市横浜に誕生したことやこれまでの教育研究の歴史や伝統から、21世紀のグローバル化の中で「実践的学

術の国際拠点」であると自覚し、先進的な役割を担っていくことを使命とすることとしました。こうした目標の達成に向け、YNUのアイデンティティ(理念・存在意義・使命)を鮮明にするため、公式なロゴ、シンボルカラー、スローガンなどを「YNU University Identity System」として平成22年より導入しています。

YNUユニバーシティ・アイデンティティ

YNU University Identity System

YNUロゴ



海外で親しまれている本学の呼称「YNU」を公式なロゴとして制定。

YNUシンボルマーク



青い空を自由に力強く羽ばたくカモメは、未来に向かって大きく飛翔する、自由な学びの精神を表現。

YNUスローガン

Initiative for Global Arts & Sciences

グローバルな学術の共創

本学が国際的な学術拠点としてなお一層、信頼と共感を獲得していく決意を表現。

YNUカラー



YNU ブルー

プロセスカラー (CMYK) C:100 M:60
web用カラー (RGB) R:0 G:91 B:172

横浜から世界への広がり、深い知性を感じるロイヤルブルー。

TOPICS

WEBサイトをリニューアル!

「Gomez 大学サイトランキング2010」総合4位を獲得

7月29日に発表された「Gomez 大学サイトランキング2010」において、本学ウェブサイトが第4位を獲得しました。

このランキングはゴメス・コンサルティング株式会社が短期大学、大学院大学を除く国内の国公私立大学を対象にウェブサイトの充実度を評価しているものです。

4月1日～7月16日の間、約740大学の中から一定の基準を満たした322大学を対象に調査

が行われ、本学は「ウェブサイトの使いやすさ」で13位、「情報の公開度・先進性」では9位にランクインし、総合4位となりました。

平成22年4月の全面リニューアルが今回の評価へとつながり、前回総合170位から大幅なランクアップを果たしました。

詳細はゴメスのサイトをご参照ください。

「Gomez 大学サイトランキング2010」

www.gomez.co.jp



横浜国立大学ウェブサイト www.ynu.ac.jp

募金状況のご報告、そして更なるご協力をお願い

急

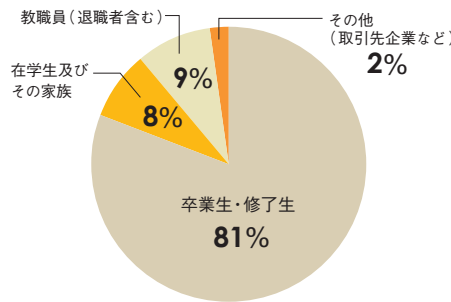
激なグローバル化の中で本学はこれまでも国際的な活動を実施してきました。しかし、昨今の経済的状況の悪化の中で、国際交流や海外からの留学生や研究者への支援、また日本人学生の海外留学や研究者の海外での活動を支援する資金が減少してきています。創立60周年記念募金はこうした本学の国際化の底上げと、さらなる推進を主眼とした事業となっています。国際化の柱となっている“国際交流基金”を一層充実させ、世界のYNUを実現させるため、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。なお、本事業を開始した平成21年10月1日から11ヶ月、平成22年8月31日時点までの募金状況は右のようになっています。

全体の募金件数・募金額の集計（平成21年10月1日～平成22年8月31日）

募金総件数…958件／募金総額…28,862,000円

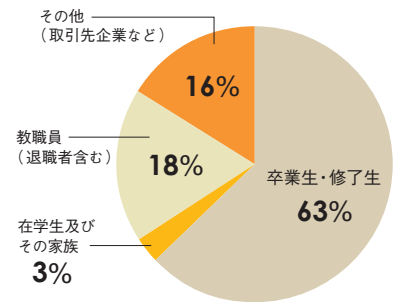
1. 募金件数

所属	合計(件数)
1. 卒業生・修了生	773
2. 在学生及びその家族	75
3. 教職員(退職者含む)	89
4. その他(取引先企業など)	21
合計	958



2. 募金金額

所属	合計(金額)
1. 卒業生・修了生	18,032,000
2. 在学生及びその家族	920,000
3. 教職員(退職者含む)	5,325,000
4. その他(取引先企業など)	4,585,000
合計	28,862,000



西沢立衛准教授「プリツカー建築賞」受賞!

工学研究院の西沢立衛准教授が、平成22年の「プリツカー建築賞」を受賞することが決定し、平成22年5月17日に授賞式が行われました。同賞は建築家に与えられる最高の荣誉で、「建築のノーベル賞」とも言われ、世界的に権威あるものです。

受賞は日本のほか、ドイツ、英国、スペイン、フランス、オランダ、米国で行っている共同建築プロジェクト「SANAA」が評価されたことによります。

プリツカー賞は米・ハイアット・ホテルチェーン創設者が理事長を務めるハイアット財団により昭和54年に設立さ

れました。同賞を日本人が受賞するのは平成7年の安藤 忠雄氏以来で、これまでに、日本が誇る建築家、丹下健三氏、槇文彦氏が受賞しています。まさに快挙の受賞です。



学生考案のデニムクラッチバックを新入生に配布!

平成22年4月2日(金)、平成22年度入学式・大学院入学式の会場で、初々しいスーツ姿に身を包んだ新入生が会場の入り口をくぐると、大学からの配布物に加え、デニム製のクラッチバック"Deco.(デコ)"が手渡されました。

クラッチバックは、教科書などを入れて手持ちで携帯するバックで、ビニール製のものが関東圏の大学で流行しています。今回の入学式で手渡されたクラッチバックはデニム製で、平成21年に出来たばかりのビジネスサークル"NON

(ノン)"が開発したものです。

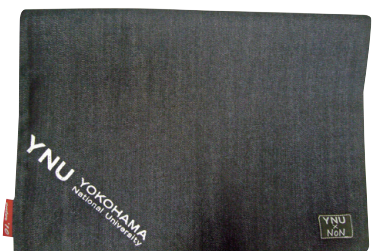
秋の大学祭「常盤祭」で毎年開かれる、YNUビジネスプランコンテストでNONのクラッチバック案は決勝まで進みました。

その後、商品化のために縫製工場を探し出し、新しいロゴを新入生にPRすることを検討していた大学側との連携が決まり、ついにDeco.が完成しました。

NONの学生から直接、Deco.を手渡された新入生は笑顔で受け取り入学式に臨んでいました。



左／歓迎の気持ちを込めて手渡しました下／デニムクラッチバック"Deco."。大学生協でも販売中



創立60周年記念募金事業の募金の活用について 国際交流事業とキャンパス整備事業のご紹介

国際交流事業

横浜国立大学国際交流基金によりこれまで、以下のような事業において学生支援を行っており、これから更なる支援拡充が求められています。

1. 学生の海外留学および海外派遣

海外学術交流協定大学への短期留学に対して、学生1人10万円程度の奨励金を支給しています。世界を舞台に活躍できる人材育成を掲げる本学としては、短期留学を義務づけた副専攻プログラムを設置する等、今後、派遣学生の大幅増加を目指しており、奨励金の充実が望まれます。他にも、大学院生等が国際会議等で発表、調査、研修するための奨励金や各部局独自の海外派遣プログラムを実施しています。

2. 外国人留学生への支援

本学には、世界各国から、800名前後の留学生が在籍していますが、内7割以上の学生が私費留学生であり、物価の高い横浜で勉学に励むには、なんらかの支援を必要としています。

優秀な外国人留学生の獲得は、日本人学生の意識向上のためにも必要な課題となっています。

フィリピンのアジア開発銀行における海外フィールドワークの様子



キャンパス整備事業

常盤台キャンパスの玄関である国大橋と周辺エリアをより魅力的にするため、コンセプト・デザインコンペを行い、最優秀賞に選ばれた2案のアイデアを両方取り入れて整備を行っています。

その他、以下のような整備を計画し、順次進行中です。

- **メインストリートの舗装改修**
歩行者優先の確保や舗装の改修。
- **外灯の整備**
安全で快適な空間にするため太陽光と風力のハイブリット型外灯の設置。
- **セキュリティポールの設置**
緊急時に守衛所と連絡が取れるセキュリティポールの設置。
- **インフォメーション・キューブ(屋外情報基地)の設置**
案内サイン、掲示板、ベンチ等を一体化した情報・休憩ポイントを数箇所設置。
- **構内案内サインの整備**
構内の案内サインのデザイン統一、英語表記付加など。
- **キャンパス内モニュメントの設置**
創立60周年を記念したモニュメントを大学正門からメインストリートにかけ設置。(予定)



メインストリートに設置された
インフォメーション・キューブ



創立60周年募金事業に 更なるご協力をお願いします。

募金は、郵便振替または、銀行振込にて受け付けております。

「募金事業のご案内」及び「振込連絡票・払込取扱票」をご希望の方は、「創立60周年募金事業 資料請求」と明記し、

1. ご住所 2. お名前 3. 電話番号 4. 本学との関係 を記載の上、下記問合せ先にてFAXまたはメールにてお申込みください。

募集金額	1億5千万円
募集期間	平成21年10月1日～平成24年3月31日
受入口数	個人の方 一口5千円 法人・団体の方 一口10万円 本募金の趣旨をご理解の上、できるだけ複数口での ご協力をお願いいたします。

みなさんの
あたたかい
ご支援を、
お待ちしております!

ご厚志に対する謝意

- ご芳名の掲載…寄附者のお名前を本学ウェブサイト及び大学広報誌に掲載いたします。
- 感謝状の贈呈…一定額以上(個人は30万円以上、法人・団体は100万円以上)のご寄附をいただいた方に、感謝状を贈呈させていただきます。
- 銘板の掲示…一定額以上(個人は30万円以上、法人・団体は100万円以上)のご寄附をいただいた方に、寄附者(ご芳名)の銘板を学内に掲示させていただきます。
- 広報誌の送付・イベントのご案内…本学の広報誌の郵送及び本学主催の各種公式行事やイベントのご案内をいたします。

【お問合せ及び連絡先】 横浜国立大学 総務部広報・渉外室 〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1
TEL: 045-339-3027 FAX: 045-339-3179 E-mail: 60y-fund@ynu.ac.jp

平成22年4月13日(火)に松本勉教授(環境情報研究院)と四方順司准教授(環境情報研究院)が、「平成22年度科学技術分野の文部科学大臣表彰」においてそれぞれ科学技術賞、若手科学者賞を受賞しました。今回は、受賞の対象となったお二人の研究をそれぞれご紹介します。

受賞記事 www.ynu.ac.jp/hus/koho/88/detail.html



表彰式の様子

生体認証技術のセキュリティ評価方法の研究

松本 勉(環境情報研究院 教授)

指 紋、虹彩、手のひらや指の静脈などの本人に固有の身体的特徴を用いて個人認証を行う生体認証システムには、身体部分のニセモノを提示して他人になりすますといった不当な行為に対するセキュリティが要求され、このセキュリティをいかにして測るかが課題でした。

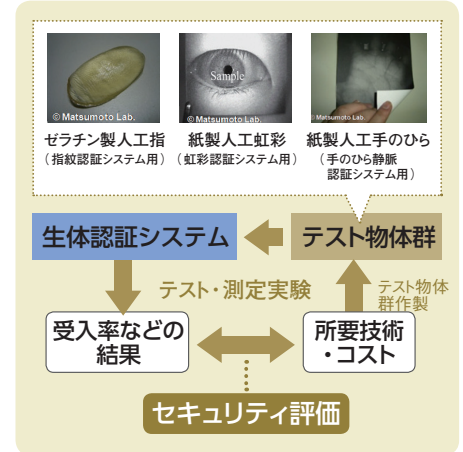
そこで、人間の身体部分(たとえば指)に性質が近い物体からそうでない物体までを含む一連のテスト物体を生体認証システムに提示し、受入率などを測定してセキュリティを評価するという画期的方法を提案しています。また、指紋、虹彩、指静脈、手のひら静脈のそ

れぞれにおいてテスト物体群を整備する方法を開発しました。

この研究により、従来パターン認識や画像処理の立場でのみ評価されていた生体認証技術を、セキュリティ面から本格的に評価することの必要性とその方法論が示され、学界にはもとより、国際標準団体、各国政府、各企業などの政策・戦略判断に大きなインパクトを与えています。

本成果は、よりセキュリティの高い生体認証技術や製品の開発を企業に促し、さらに、技術・製品の導入者・利用者側の生体認証システムに関する意識改革をも促して、世の中のセキュリティ向上に寄与することが期待されています。

生体認証技術のセキュリティ評価方法



松本 勉
環境情報研究院教授
専門は情報・物理セキュリティ、情報学全般

情報理論的安全性を有する暗号及び認証理論の研究

四方順司(環境情報研究院 准教授)

今 日の情報化社会において、暗号・認証技術はインターネット等を利用した様々なサービス(電子商取引等)の安全性を支え、多くの人々が安心して通信・契約等を行うための核となる技術です。本研究室では、暗号学(暗号理論)、理論計算機科学、計算数論等の分野を研究しており、特に暗号理論には力を入れています。現代の暗号理論は、科学分野の学問として、暗号及びそれに関連する科学理論を幅広く研究対象とし、その内容は主として情報学、理論計算機科学、数学に跨る学際的な学問分野となっています。

さて、現代暗号における安全性は、主に計算量理論的安全性と情報理論的安全性に大別されます。前者は「素因数分解を行うことは計算量的に困難

である」という仮定(つまり、素因数分解を行う高速なアルゴリズムは存在しないという仮定)等を必要とする安全性です。一方、後者では、そのような計算量的困難な問題に関する仮定を必要とせずに、攻撃者への情報漏えいの度合い(情報量)を情報理論的立場から、客観的に見積もることで安全性を保証する方法論がとられます。現在の暗号・認証技術の構築においては、前者の方法論(計算量理論的安全性)が普及していますが、将来の計算アルゴリズムの発展や新たな計算機技術の登場(量子計算機等)の可能性を考えると、時代の計算機技術に依存せず原理的に安全な暗号・認証技術を効率的に実現することが理想的です。本研究室では、これまで後者の方法論(情報理論的安全性)から、

電子署名やステガノグラフィをはじめとする暗号・認証技術に対して、世界で先駆的な研究成果を発表してきており、安全性に関する諸概念の数理モデル化・定式化を大きく発展させ、また強い安全性をもつシステム構築理論を完成させてきました。そして、それら成果に対して英国計算機学会表彰(The Wilkes Award)受賞、今年度の文部科学大臣表彰(若手科学者賞)受賞等の栄誉を賜り、これを励みとして現在当該分野の新理論の構築に取り組んでいます。



四方順司
環境情報研究院准教授
専門は情報学基礎、数学一般(含確率論・統計数学)